

再評価結果(令和7年度事業継続箇所)

担当課: 道路局 国道・技術課
担当課長名: 西川 昌宏

事業名	一般国道52号 <small>かみいし だかいりょう</small> 上石田改良		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局	
起終点	自: 山梨県甲府市富竹一丁目 至: 山梨県甲府市寿町				延長	1.0km	
事業概要							
<p>一般国道52号は、静岡県静岡市から山梨県甲府市に至る幹線道路である。</p> <p>上石田改良は、甲府市内を流れる荒川や貢川に架かる橋の架け替えや4車線化による交通円滑化、拡幅・線形改良と歩道設置による交通安全の確保、定時性の向上、防災拠点等へのアクセス性向上を目的とした、甲府市富竹一丁目から甲府市寿町までの延長1.0kmの4車線の拡幅事業である。</p>							
H8年度事業化		S21年度都市計画決定 S43年度都市計画変更		H16年度用地着手		H17年度工事着手	
全体事業費		143億円	事業進捗率 (令和6年3月末時点)		約99%	供用済延長 0.75km	
計画交通量		24,500～31,300台/日					
費用対効果分析	B/C (事業全体)	EIRR (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体) 5.9/257億円		総便益 (残事業)/(事業全体) 185/286億円		基準年
	1.1	4.3%	(事業費: 4.2/ 249億円) (維持管理費: 1.7/ 8.2億円)		(走行時間短縮便益: 164/ 264億円) (走行経費減少便益: 19/ 22億円) (交通事故減少便益: 2.5/ 0.22億円)		令和6年
	1.7 [2%] 2.2 [1%]						
	(残事業)	(残事業)	感度分析 (事業全体)		感度分析 (残事業)		
31.2 40.3 [2%] 46.1 [1%]	96.3%	交通量 B/C=1.1～1.3(±10%)	事業費 B/C=1.1～1.1(±10%)	事業期間 B/C=1.1～1.1(±20%)	交通量 B/C=31.0～38.5(±10%)	事業費 B/C=29.2～33.6(±10%)	事業期間 B/C=30.2～31.2(±20%)
事業の効果等							
<p>① 交通渋滞の緩和・交通事故の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道52号(現道)には、主要渋滞箇所が存在しており、貢川橋西詰交差点、貢川交番前交差点、貢川交差点などで速度低下が顕著で、車両事故の約5割が追突事故となっている。 ・残る1工区の整備により、交通が4車線区間に転換し、交通渋滞の緩和、交通事故の減少が見込まれる。 <p>② 定時性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道52号(現道)は、甲府駅～韮崎駅方面を結ぶ路線バスが利用しており、定時性の確保が望まれる。 ・現道上には主要渋滞箇所が3箇所あり、2工区開通前は混雑時と非混雑時で所要時間の差が約2分発生。 ・2工区の開通後、混雑時と非混雑時の所要時間の差が減少し、定時性が向上。 ・残る1工区の開通により、現道区間における更なる定時性の向上が期待。 <p>③ 防災拠点等へのアクセス性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曾根丘陵断層帯を震源とする大地震において、甲府市上石田は震度6弱～震度7の想定。 ・国道52号(現道)は第一次緊急輸送道路や代替・補完路(重要物流道路から防災拠点等へのルート)に指定。 ・荒川橋の架替えにより耐震性が向上し、地震時の甲府昭和ICから市内中心部へのアクセス性が向上。 ・残る1工区の4車線道路の整備により、市内中心部から西側の指定避難所へのアクセス性向上が見込まれる。 <p>④ 交通安全の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩行空間が狭小な現道に対し、4車線化区間は歩道や自転車通行帯の設置により、歩行者や自転車の安全でスムーズな通行を実現。 ・2工区の現道区間は、2工区の開通後に歩行者・自転車の事故件数が減少。 							

関係する地方公共団体等の意見

・山梨県知事の意見:

一般国道52号は甲府都市圏の重要な幹線道路であり、上石田改良の整備は、交通渋滞の緩和による定時性の向上、安全な通行の確保、防災拠点へのアクセス性向上などが期待される、地域の発展に欠かせない重要な事業である。

すでに、2工区(荒川橋から甲府南アルプス線(通称アルプス通り))は供用されているが、残る1工区が未整備であるため、依然、国道52号(現道)の貢川交番前交差点を中心に渋滞が慢性的に発生している状況である。

このため、事業効果を最大限に発揮すべく、早期に残る1工区の供用に向け取り組んでいただきたい。

事業評価監視委員会の意見

事業の継続を了承する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・甲府市内では、国道52号に接続する都市計画道路和戸町竜王線(中央四丁目工区)が令和4年12月に開通。
- ・国道52号上石田改良と接続する(主)中央南アルプス線につながる新山梨環状道路(桜井～塚原)が令和6年度に新規事業化。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・昭和21年度に都市計画決定、昭和43年度に都市計画変更、平成8年度に事業化、平成16年度に用地着手、平成17年度に工事着手。
- ・2工区(荒川橋～アルプス通)の0.75kmは平成26年4月に4車線開通。
- ・用地進捗率は約96%(令和6年3月末時点)。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・現況交通を確保しながらの拡幅工事を実施する計画となったため、切り回し等に時間を要した。
- ・引き続き、用地取得、工事の促進を図り、早期の全線開通を目指す。

施設の構造や工法の変更等

- ・施工計画(施工ステップ)の変更及び切り回し費用に伴う増額、労務費・材料単価の上昇により、事業費が増加。
- ・暗渠タイプの街渠縦断管から、路面に連続的な集水スリットがある「都市型側溝」へ見直すことで、コスト縮減。

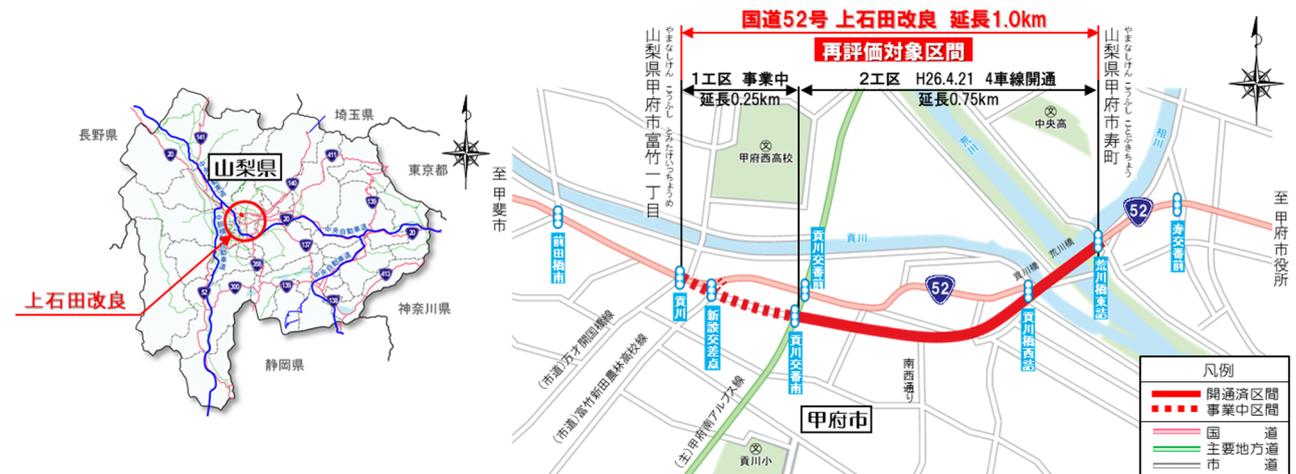
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)